

一般国道156号

お や な
小屋名改良

(道路事業)

説明資料

平成26年12月5日

国土交通省中部地方整備局
岐阜国道事務所

目 次

1. 一般国道156号 お や な 小屋名改良の事業概要	
（1）事業目的	P. 1
（2）計画概要	P. 2
2. 評価の視点	
（1）事業効果の発現状況	P. 3
①交通渋滞の緩和	P. 3
②交通安全性の向上	P. 4
③歩道安全性の向上	P. 5
④地域連携の推進	P. 6
⑤地域生活の支援	P. 7
3. 社会経済情勢の変化	P. 8
4. 対応方針（原案）	P. 9

1. 一般国道156号小屋名改良の事業概要

(1) 事業目的

一般国道156号^{おやな}小屋名交差点は、^{ぎふ}岐阜市と^{せき}関市を結ぶ交通の要衝として重要な位置にある交差点で、主要渋滞箇所及び事故危険箇所として位置付けられていました。

一般国道156号^{おやな}小屋名改良は、^{おやな}小屋名交差点の交通渋滞の緩和、交通安全性の向上を主な目的として、4車線計画で事業を推進しておりましたが、交通状況の変化を踏まえ、2車線計画に見直し、平成22年3月25日に開通しました。

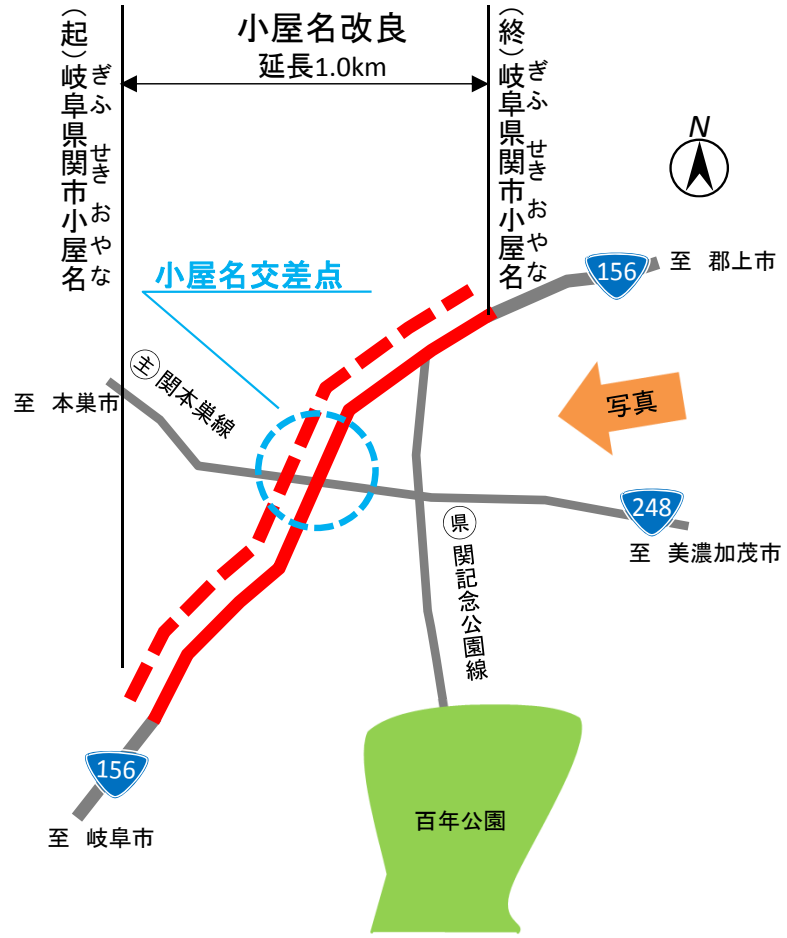
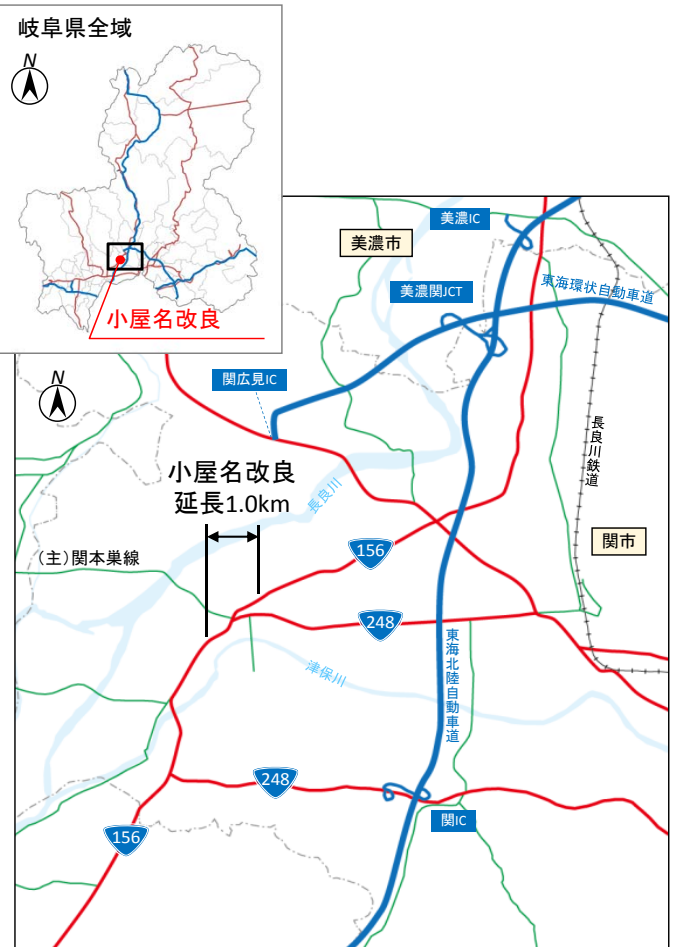
全

体

位

置

図



- 事業化 : 昭和49年度
- 都市計画決定 : 昭和49年度
- 用地着手年度 : 平成4年度
- 工事着手年度 : 平成9年度
- 事業完成年度 : 平成22年度
- 前回の再評価 : 平成19年度
(指摘事項なし: 継続)
- 全体事業費 : 約56億円
- B/C : 1.1



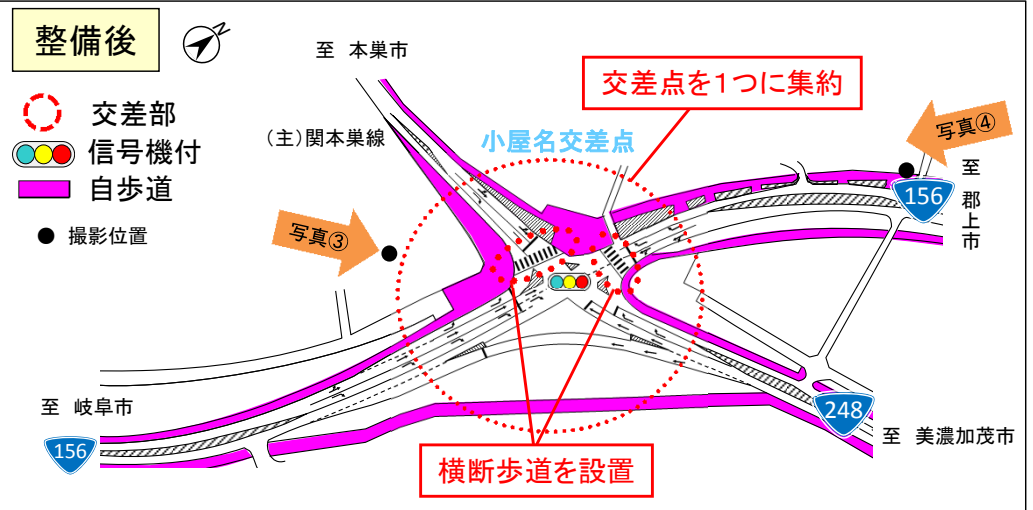
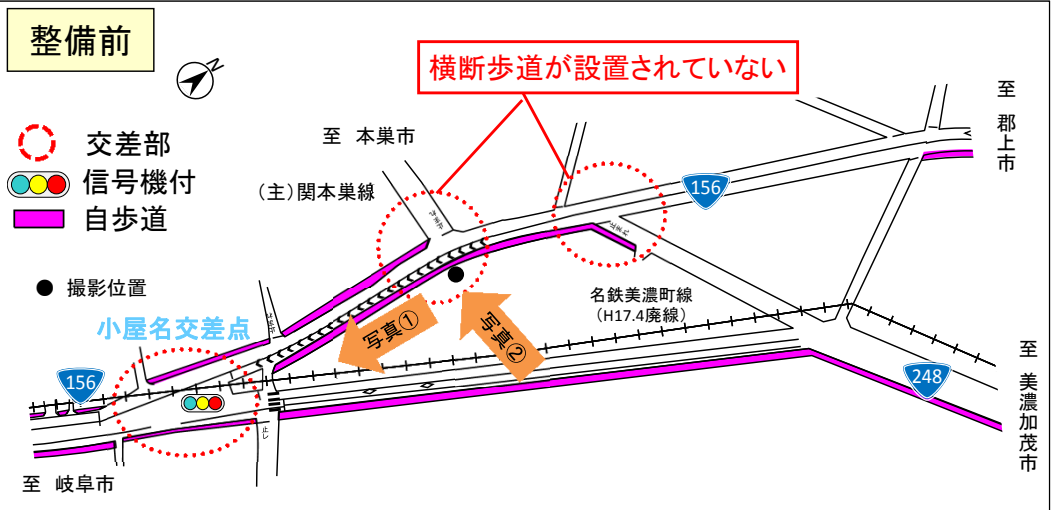
1. 一般国道156号小屋名改良の事業概要

(2) 計画概要

小屋名交差点周辺では、名鉄美濃町線との踏切交差点や、他路線との交差が集中した複雑な形状となっており、交通の錯綜を起因とした渋滞・交通事故が発生していました。

平成17年4月に名鉄美濃町線が廃線となり、平成22年3月に一般国道156号小屋名改良が完成したことにより、交差点を1箇所に集約し、横断歩道の設置、歩道幅員の拡幅を行ったことで、交通の錯綜を起因とした交通渋滞の緩和、交通安全性の向上等の効果が発現され、地域連携の推進、地域生活の支援等に寄与しています。

小 屋 名 交 差 点 形 状 図



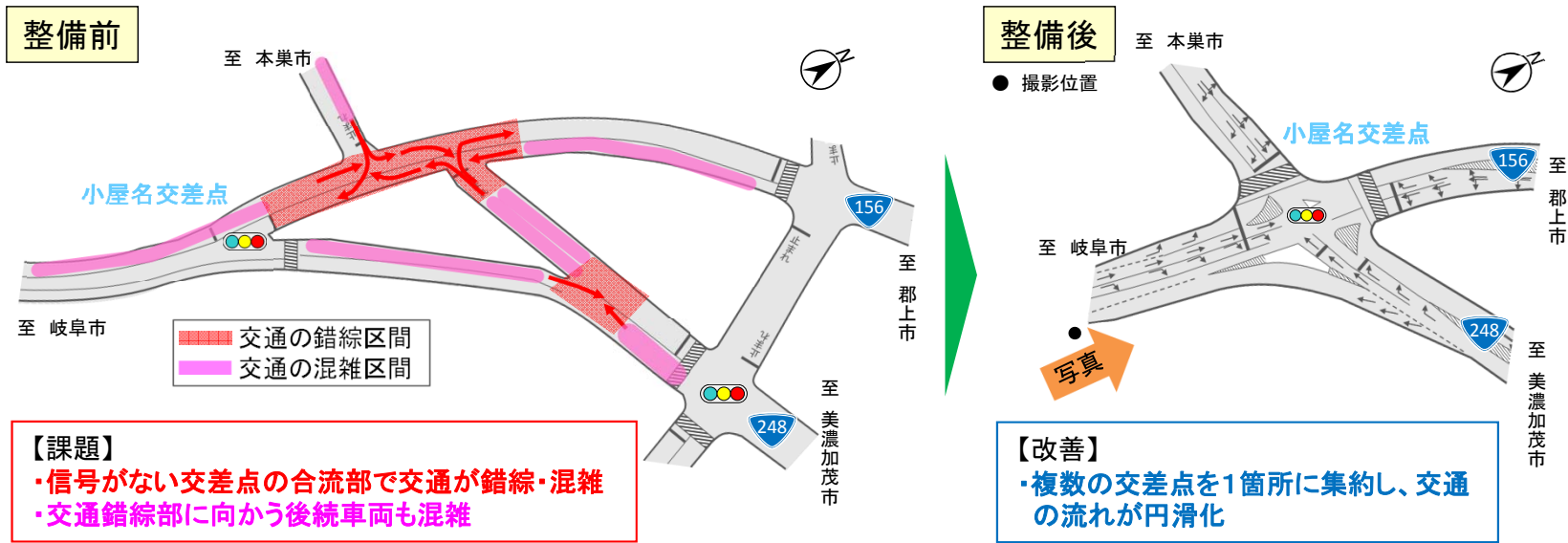
2. 評価の視点

(1) 事業効果の発現状況

① 交通渋滞の緩和

○交通渋滞の緩和
■国道156号おやな小屋名改良により、複数の交差点を1箇所に集約したことで、交通の流れが円滑となったため、走行時間が3割短縮し、渋滞損失時間が2割減少され、交通渋滞が緩和しました。

●小屋名交差点周辺の交通状況

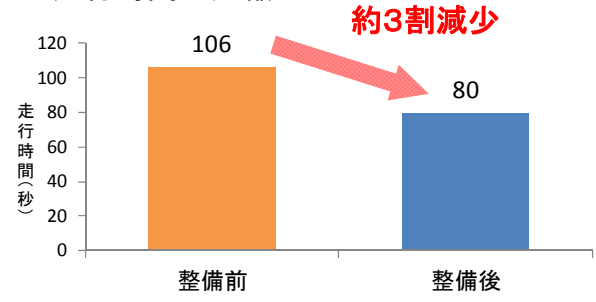


●交差点改良後の円滑な交通状況

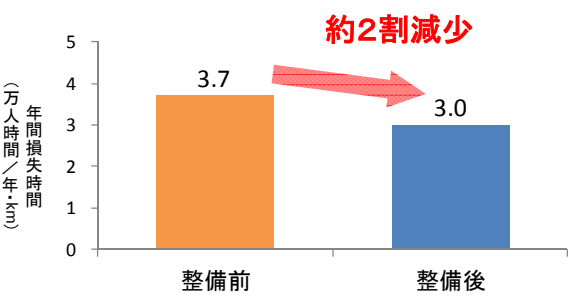


平成26年9月撮影

●走行時間の短縮



●渋滞損失時間の減少



【算出条件】

走行時間: 小屋名改良1.0km区間における国道156号岐阜市方面の12時間(7:00~19:00)平均旅行速度に基づく走行時間を算出
渋滞損失時間: 小屋名改良1.0km区間における国道156号岐阜市方面の12時間(7:00~19:00)平均旅行速度に基づく損失時間を算出

出典:

整備前: H17プローブデータ
整備後: H25プローブデータ

●住民アンケート調査(H26.8)

- ・渋滞がかなり解消されたので時間のロスやイライラがなくなり利用回数が増えました。
- ・以前は渋滞が嫌で裏道に逃げてましたが、今はスムーズに流れるため無理に細い道へ入ることがなくなりました。
- ・渋滞が解消したため、時間に余裕が出て安全に運転ができるようになりました。

2. 評価の視点

② 交通安全性の向上

○交通安全性の向上

■国道156号おやな改良により、交差点を1箇所に集約したことで、交通の錯綜が解消されたため、追突・右折事故など全体で年平均交通事故件数が9割減少し、交通安全性が向上しました。

●小屋名交差点の事故発生状況

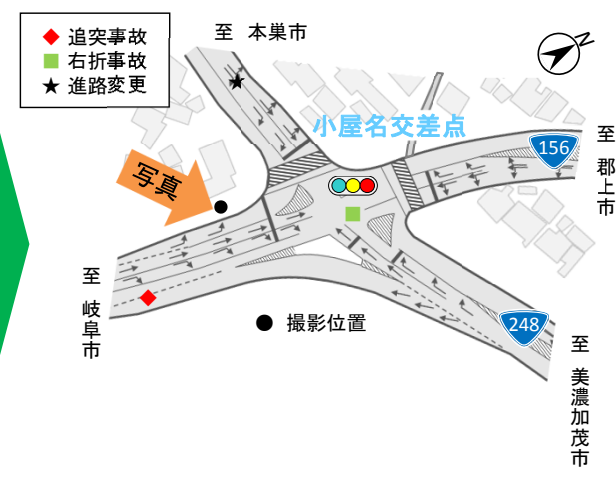
整備前 (H17～H21)

○交通の錯綜を起因とする事故発生状況



整備後 (H22～H25)

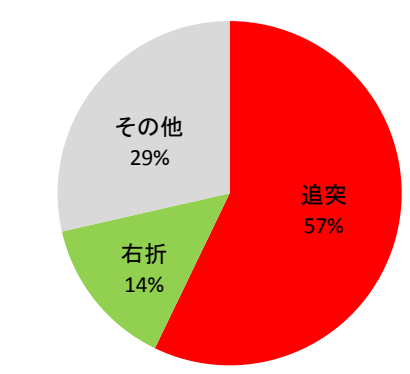
○交差点形状に起因する車線変更等の事故発生状況



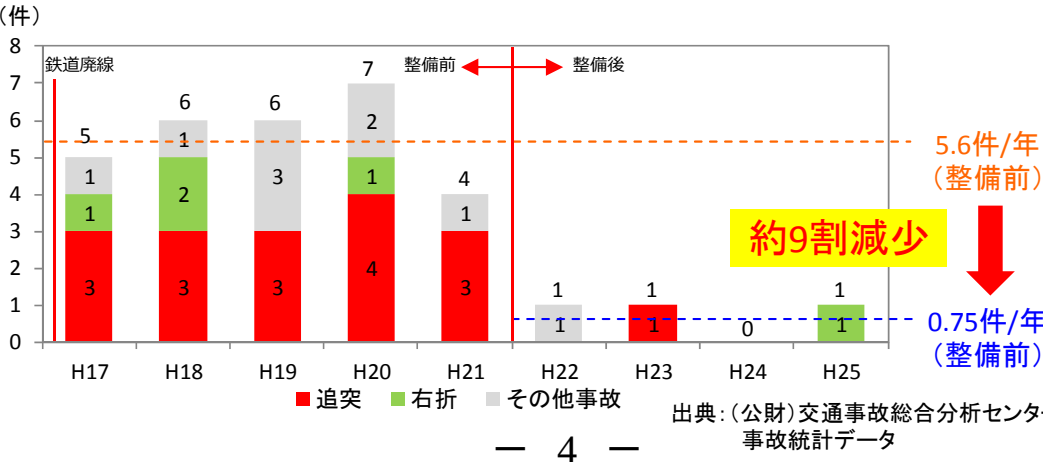
●信号制御により交通の錯綜が解消



●整備前 (H17～H21) の事故類型



●小屋名交差点の交通事故件数の推移



●住民アンケート調査 (H26.8)

- ・信号が設置されたことにより以前より事故が減少しました。
- ・小屋名の交差点では大きな事故が多かったが、改良後に事故は前より見かけなくなった気がします。
- ・信号に従って通行できるようになったので無理な割り込みをしなくて良い。

2. 評価の視点

③ 歩道安全性の向上

○通学時の安全性向上

- 国道156号及び(主)関本巢線の自歩道は、通勤・通学路に利用されています。
- 国道156号小屋名改良に伴い、新たに国道156号(郡上側)及び(主)関本巢線に横断歩道を設置し、歩道幅員を拡幅したことで、小・中学生の通学時等、歩道利用者の安全性が向上しました。

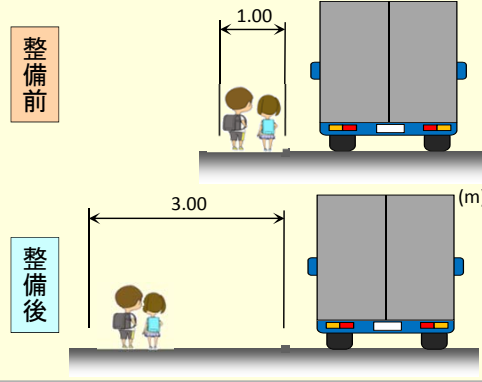
●小屋名交差点の横断歩道および歩道の設置状況



写真①



写真②



- 横断歩道利用者数
- ・国道156号(郡上側)
歩行者36名、自転車 65名、計101名
- ・(主)関本巢線
歩行者30名、自転車 69名、計 99名
- ・合計
歩行者66名、自転車134名、計200名
(H26.9 12時間調査結果)

●住民アンケート調査(H26.8)

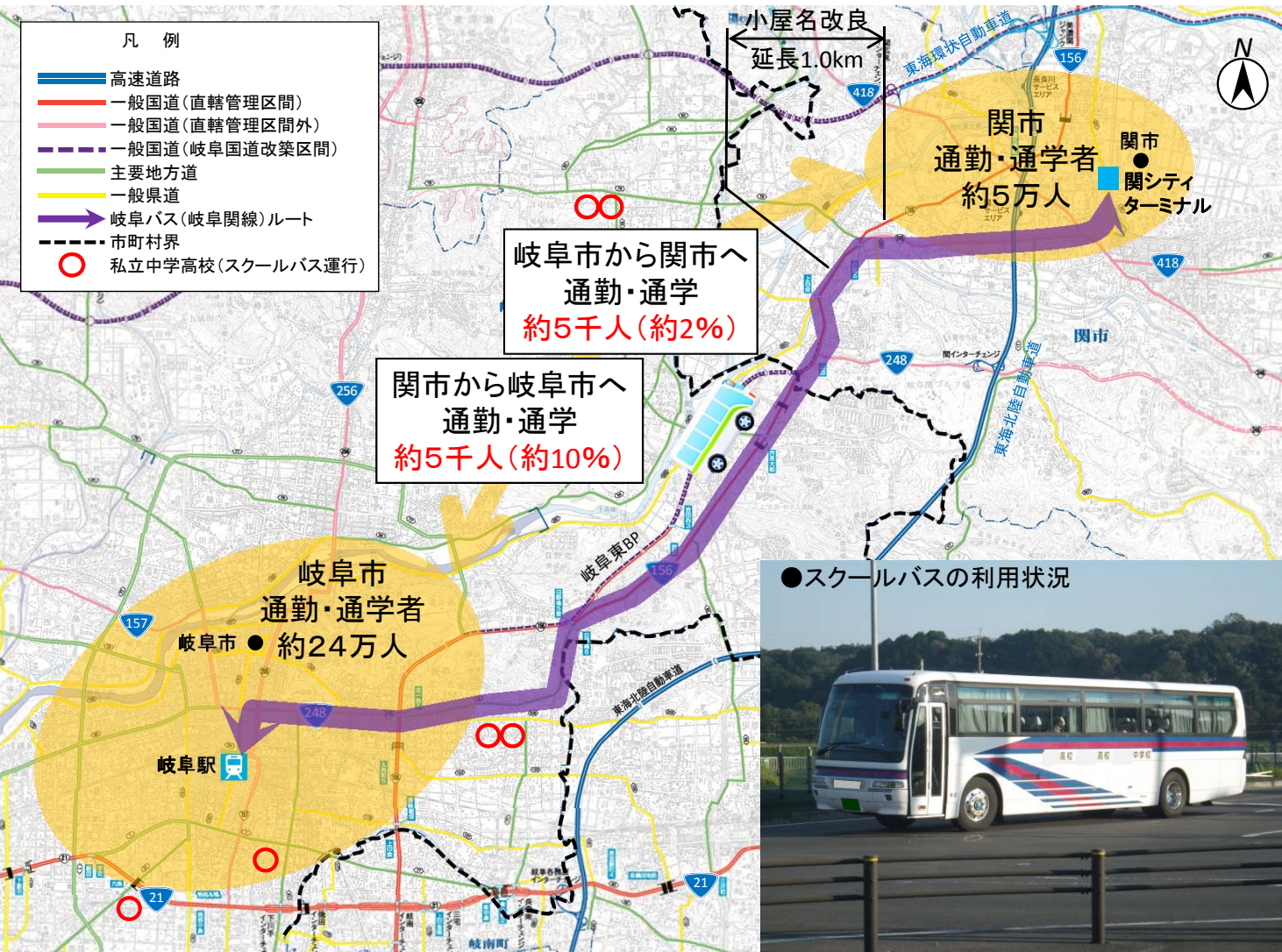
- ・交差点に横断歩道が出来たため安全に歩行できるようになりました。
- ・子供も信号がついて横断歩道を利用して渡るようになりました。
- ・歩道が広がって安心して散歩ができます。

2. 評価の視点

④ 地域連携の推進

○都市間移動の円滑化

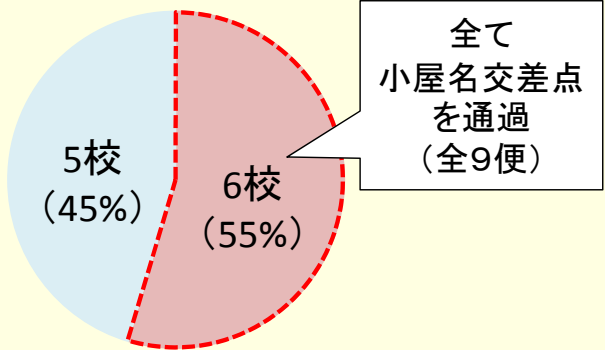
- 岐阜市及び関市は隣接しており、岐阜市と関市相互の通勤・通学者がそれぞれ約5万人流動し、結びつきが強い都市です。
- 通学に利用するスクールバス等は小屋名交差点を通過しており、国道156号小屋名改良の整備により岐阜市と関市の都市間移動が円滑になったことで、地域連携の推進に寄与しています。



出典:H22国勢調査(通学・通勤者数)

●私立中学高校のスクールバス運行状況

- ・岐阜市内の私立中学高校11校のうち、6校が関市内へスクールバスを運行



出典:私立中学高校ホームページ

●スクールバスの利用状況



平成26年9月撮影

●関市役所ヒアリング (H26.8)

- ・岐阜バスや、岐阜市内の私立高校スクールバスも小屋名交差点を運行しているため、小屋名交差点の整備により、通勤・通学がとても便利になったと思います。

2. 評価の視点

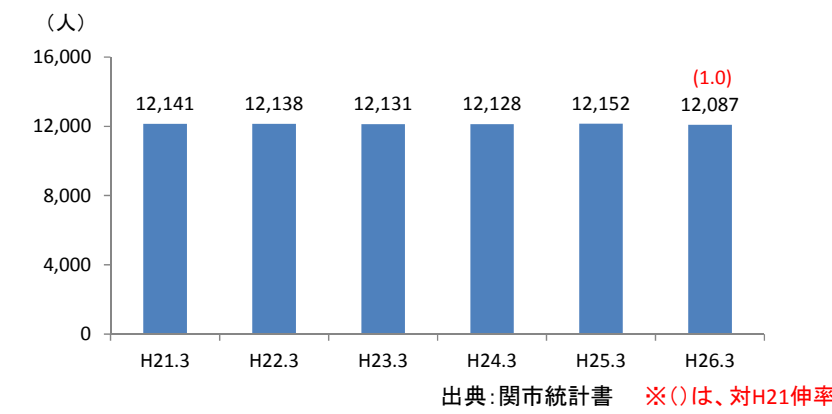
⑤ 地域生活の支援

○シティバスの利用者増加

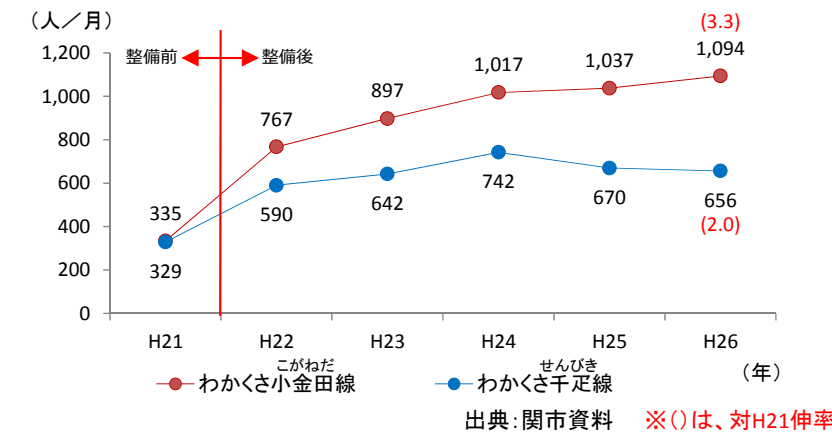
- 小屋名周辺地域では、関シティバスが地域住民の買い物、通院、市役所等への移動手段として重要な役割を担っています。
- 小屋名周辺地域の人口は横ばいで推移していますが、国道156号小屋名改良の整備後、当該地域を通過するバスの利用者の増加がみられ、地域生活の支援に寄与しています。



●小屋名周辺地域の人口の推移



●関シティバスの利用者数の推移(月平均利用者数)



●関市役所ヒアリング(H26.8)

・わかくさ小金田線、わかくさ千足線は、定時性が確保されており、満足度の高い路線です。

3. 社会経済情勢の変化

- 平成17年に名鉄美濃町線が廃線となりました。
- 平成20年の国道248号バイパスの部分開通により、国道248号現道の交通がバイパスに転換し、美濃加茂市方面から国道156号(小屋名交差点)を経由し、岐阜市方面へ向かう交通が約2千台／12h減少しました。

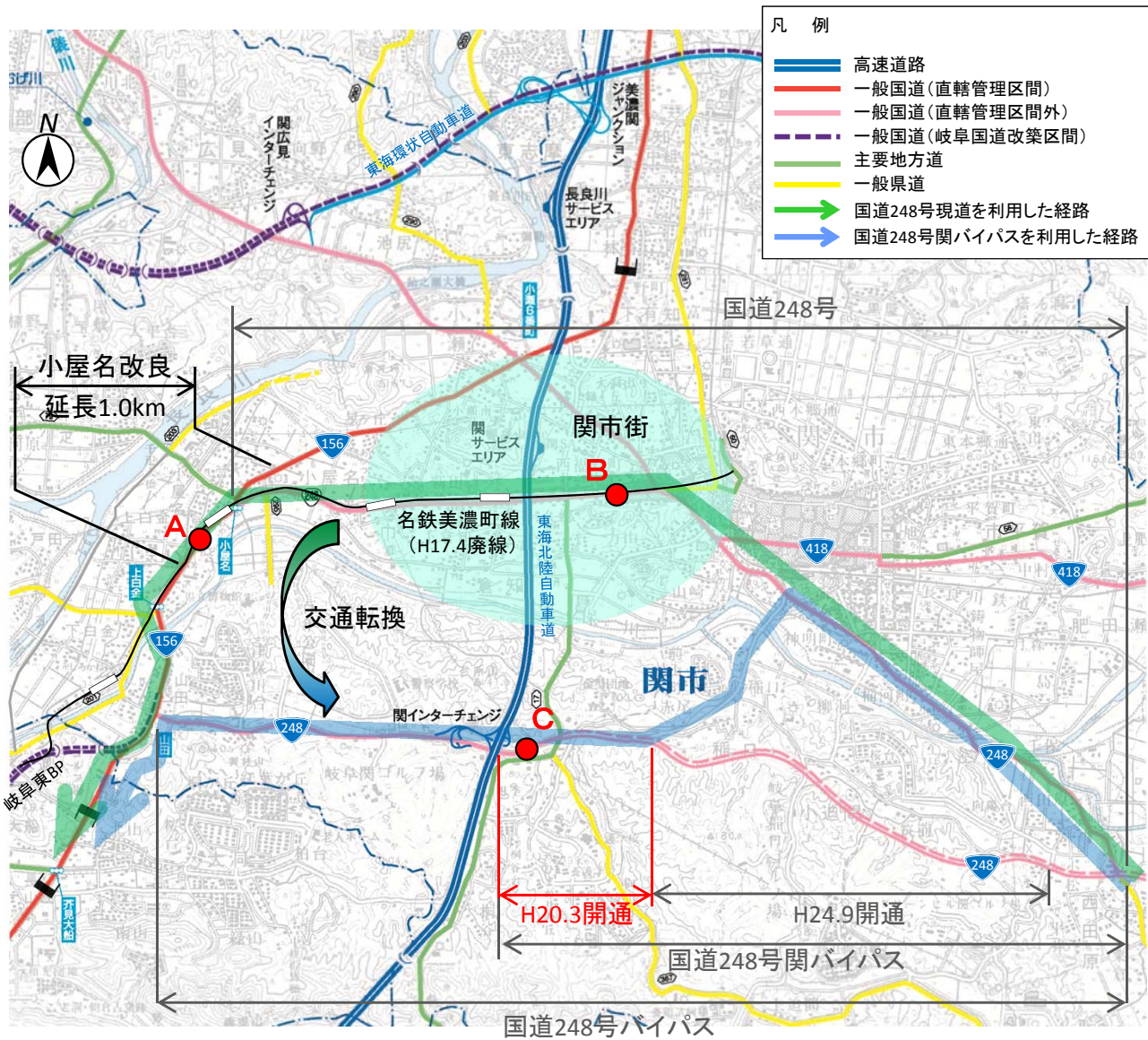
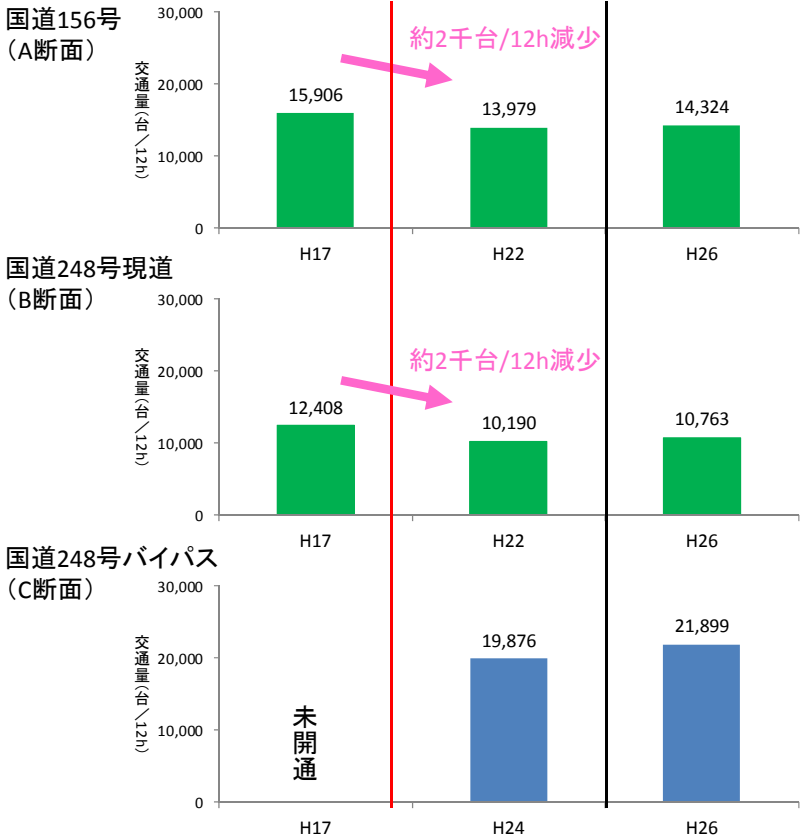


表 社会経済情勢の変化

年次	経緯
平成17年4月	名鉄美濃町線廃線
平成20年3月	国道248号関バイパス部分開通
平成22年3月	小屋名交差点整備完了
平成24年9月	国道248号関バイパス全線暫定開通

●交通量の推移



出典：交通量調査結果 (12hは7:00～19:00調査)

4. 対応方針(原案)

(1) 今後の事業評価の必要性

- 一般国道156号^{おやな}小屋名改良は事業が完了しており、整備目的どおりの効果が発現していることから、2車線整備における今後の事後評価の必要はないと考えます。

(2) 改善措置の必要性

- 一般国道156号^{おやな}小屋名改良は、整備目的を達成していると判断できるため、2車線整備における改善措置の必要はないと考えます。
- 今後は、現地の交通状況を踏まえ、必要性に応じて4車線化を検討します。

(3) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 一般国道156号^{おやな}小屋名改良は当初の整備目的どおりの効果を確認していることから、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はないと考えます。